令和6年度 第3回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	令和6年9月26日(木) 14時00分～16時00分	
開催場所	稲毛区保健福祉センター 3階 大会議室	
出席者	<委員>	
	伊藤 佳世子 氏	(中央区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	近藤 秀登 氏	(花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	伊藤 正彦 氏	(若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	由良 亮人 氏	(緑区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	藤本 真由美 氏	(美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	末永 慎介 氏	(鎌取相談支援センター センター長)
	高柳 佳弘 氏	(メープルリーフ 運営管理者)
	藤尾 健二 氏	(千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長)
	平田 智子 氏	(千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者)
	鈴木 信知 氏	(千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進班長)
	仲村 美緒 氏	(千葉市発達障害者支援センター 所長)
	山崎 貴裕 氏	(中央区高齢障害支援課 障害支援班 主査)
	木村 一夫 氏	(花見川区高齢障害支援課 障害支援班 主査)
	荒井 拓 氏	(障害福祉サービス課 指導班 主査)
	北田 幸一 氏	(障害福祉サービス課 施設支援班 主査)
	北島 岳彦 氏	(障害福祉サービス課 地域支援班 主査)
	永井 智也 氏	(精神保健福祉課 通報対応班 主査)
	<オブザーバー>	
	吉田 美穂 氏	(障害福祉サービス課 地域支援班 主任主事)
	<事務局>	
	井出 孝子	(稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	<欠席>	
土屋 昌之 氏	(有限会社トータル介護サービスアイ 千葉営業所 所長)	
垂見 成人 氏	(障害者自立支援課 企画班 主査)	
藤崎 直樹 氏	(障害者自立支援課 給付班 主査)	
議題	議題1:【自立支援協議会報告】各基幹より 全体会については井出より報告	
	議題2:【地域生活支援拠点等】花見川区基幹 近藤氏	
	議題3:【医療的ケア児専門部会】美浜区基幹 藤本氏、中央区基幹 伊藤氏	
	議題4:【行動障害を考える会】緑区基幹 由良氏	
	議題5:【精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について】 鎌取相談支援センター 末永氏	
	議題6:【就労部会】千葉市キャリアセンター 藤尾氏	
	議題7:【相談支援従事者初任者研修】稲毛区基幹 井出	
	議題8:【保育所等訪問支援事業所連絡会】障害福祉サービス課 荒井氏	
	議題9:【こども発達相談室】障害福祉サービス課 北島氏	
議事	議題1【報告】自立支援協議会	資料なし
	自立支援協議会 (1)各地域部会の報告[資料データ事前配布] 中央区 伊藤氏 中央区では、公立高校の定員割れ不合格、保育所等訪問支援、GHの連座制について話した。保育所等訪問支援については後半の議題で報告する。	

花見川区 近藤氏

花見川区では、参加委員から自事業説明を順に話してもらっている。8月は高齢障害支援課（障害支援班）主査より、業務内容やサービスに絡めた事例を緊急、孤立、ライフラインが止まったケース等ご報告いただいた。

若葉区 伊藤氏

若葉区では、医ケア関係で電源マップを公表できるかの質問を頂いたが、その予定はないと返答があった。また、あんしんケアセンターより事例を共有いただいた。内容は8050で初回の相談から5～6年の関わりを経て対応できたケース。ほか、消費者問題で消費生活センターより注意喚起のお知らせがあった。ロマンス詐欺や三世帯世帯でも巧妙で支援者でも騙されそうになった詐欺があると伺った。インターネットでの通販においても、クレジット機能を作らせお金を使わせようとする詐欺もあるよう。最後はごみ屋敷の対応について。こういったケースは片づけたとしても元に戻ってしまう可能性が高い。サービスにつなげることを目的とした介入について話した。

緑区 由良氏

緑区では、まず児童系通所事業所意見交換会の振り返りを行った。今年度4月から設置された子ども家庭総合支援拠点について、こども家庭課から業務内容や連携の取り方についてお話いただき、こども家庭課と基幹が連携を取った事例を紹介した。参加者から教育と福祉の連携において、関わり方や連携の取り方に相違がみられるといった意見があり、その相違についての解消をしていく必要性がみられた。保育所等訪問支援事業が話題に挙がり、課題について共有がなされた。次に、相談支援事業所意見交換会を振り返った。内容はグループホーム等支援ワーカーについて、市川圏域ご担当者よりお話いただいた。（株）恵が報道に出ていた時期でもありタイムリーな話題だった。そこから千葉市の福祉サービスの現状と課題について、事業所数は増えているものの、行動障害等のある方へ支援の難しさ、人材育成の難しさを話し合った。

美浜区 藤本氏

美浜区では8月16日、台風が襲った日の開催だったため、急遽ハイブリッドで実施。内容は、前回に引き続き児童について話し合った。家庭全体に知的障害があり子どもがヤングケアラーの事例検討を行なった。また、8月31日開催の第2回児童系通所事業所意見交換会では、相談支援事業所や健康課にもご参加いただいた。11月からはこども発達相談室にもご参加いただく予定。

稲毛区 井出

稲毛区では、福祉まるごとサポートセンターに来ていただき役割や活動について、実績と事例に基づきながらお話しいただいた。相談件数は右肩上がり、どこに相談したらいいか分からないケースもお受けすると謳っている。4月以降は支援につながっていないケース、本人が望んでいないケース等にもアウトリーチし関わる予定との話があった。今後はこども発達相談室も設立され、複雑化・多様化した相談内容に対し専門性をもって支援にあたる機関が出来る。その分、当事者や地域の方々はどこに相談していいか分からないと頭を悩ませるかもしれないと委員よりご意見いただいた。地域のみなさんに上手く活用していただけるよう、各機関で連携強化に努めていきたい。

（2）令和6年度第1回千葉市自立支援協議会全体会の報告

稲毛区 井出

8月23日開催。にも包括ではケアサポーターの活動について、県との連携強化等ご質問があった。障害福祉サービス関係ではセルフプラン作成について、本人が最初から希望しているのか、やむを得ず作成しているのか、内訳が把握しづらいという話があり、事務局より検討すると返答いただいた。千葉市は他の自治

体と比べてセルフプラン率が低いというデータがあり、今後その率をさらに下げられるよう、本人と相談支援事業所とのマッチングを図ったり、相談支援事業所を増やす方針なのかという質問があり、千葉市から、補助金の活用や報酬増に関して国への要望を行うことなどにより、事業所増に努めたいと返答いただいている。基幹の運営状況について。相談実績のカウントについてはネットワーク会議で話し合った結果を近藤氏よりご報告いただく。

花見川区 近藤氏

実績のカウント方法は各区基幹によってソフトの有無や違い等さまざまであるし、使用しているソフトウェアによっては入力制限があり、相談内容や主訴等、カウントの統一が難しいのが現状。市から示されている基準（福祉行政報告例）がある中でもずれが生じている。ソフトウェアを全区基幹一括で導入すれば解決できるかもしれないが、それも難しい現状。分類についても、精神の中での高次脳機能障害や発達障害等、詳細な内訳が出せないか、そういった障害のある方々が埋もれてしまっているのではないかと意見があった。

稲毛区 井出

日中サービス支援型GHについて。事業所数が増えている印象がある中、社会問題となっている事業所が千葉市内に3か所あり、評価や詳細な調査の必要性をご意見いただいた。自治体からの調査について質問すると、実際事業所へ訪問はできていないとご回答いただいた。

障害福祉サービス課 北田氏

全体会では、(株)恵について自立支援協議会として意見を出すべきと佐藤副会長よりご意見いただいた。まず伊藤会長、その後みなさまに説明した。それに対する反応は現時点で頂いていない。このままなければ協議会の意見として残させていただく。

●参加者からの質問

鎌取相談支援センター 末永氏

(株)恵の件について、事業所更新後に利用者さんがどうなるのかを追跡し、その後もご報告いただきたい。

障害福祉サービス課 北田氏

千葉市は2年半～3年後を更新期間としている。利用者さんの移行については相談支援事業所にもお願いしているところではあるが、行き先については市としても第一に考えている。

千葉市では、最短で約3年後が更新期間となっている。利用者の意向確認については相談支援事業所にもお願いしているところではあるが、転居希望者の意向については市としても第一に考えている。

キャリアセンター 藤尾氏

実績のカウント方法について。手作業でカウントしているならば職員のみなさまの労力が大変。どこかのタイミングで統一したシステムを導入するべきと考える。それでも全区でそろわない現状があり、障害者就業・生活支援センターも同様の状況になりシステムを導入して仕事量は格段に少なくなり職員の負担が軽くなった。市からの委託金で対応できないのか。

障害福祉サービス課 北島氏

相談支援記録作成システムの導入・運用費用について、予算要望の検討をしているところ。

花見川区 近藤氏

個人情報管理がシビアになっている。クラウドを活用することによって個人情報の安全性が担保されるのではないかという意見もあった。自区基幹はアナロ

グで対応している。

議題 2 【報告】 地域生活支援拠点等

資料 2

・令和 6 年 10 月 26 日(土)啓発活動

花見川区 近藤氏

シェルター機能の向上はもちろんだが、千葉市としては緊急を緊急にしないための取り組みも進めている。その 1 つに、就労しているが福祉に繋がっていない方向けに、昨年度キャリアセンター在職者交流会で啓発した際、非常にご好評いただいた。在職者に限らず、就労関係事業所も含め広められないかと模索している。福祉に結びついた当事者の方に登壇していただきたいと検討していたが、なかなか当事者が見つけれない。そのためグループホームでの様子を撮影し、その利用者の方に語っていただくこと等を検討している。10月26日を予定。

議題 3 【報告】 医療的ケア児等専門部会

資料 3

美浜区 藤本氏

8 月は検討会を実施。医ケア児等に向けたパンフレット作成している中、相談先の明確化等ご意見いただいたので参考に作成していく。医療関係のみで福祉とつながっていないケースが増えてきているので当事者の方々の役に立つパンフレットを作っていきたい。9 月は桜木園とえぶりから講話いただいた。利用者に合わせた支援ツールを作ったり、季節に合わせた制作を行ったりしているという。家族のニーズにも合わせ、レスパイトや就労につなげる工夫をしていた。

・「千葉市への要望書」について

中央区 伊藤氏

医ケア児者を受けている生活介護の特に入浴と送迎をしているところが軒並みは赤字となっている。今年度の報酬改定をもってしても黒字になりにくい。千葉市に独自加算についての要望書を今月中に提出するため、現在署名を集めている。署名は 1, 000 件を超えている。

●参加者からの質問

キャリアセンター 藤尾氏

その要望書は短期的な視点で千葉市に提出するのか。長期的視点で考えるならば国全体に向けて挙げるべきではないか。

障害福祉サービス課 北田氏

次回の報酬改定でどうなるかは現時点で分からないが、成人になった瞬間に報酬が下がってしまうのはおかしな話。引き続き国にも要望していく。

議題 4 【報告】 行動障害を考える会

資料 4

・令和 6 年 9 月 18 日(水)研修会

緑区 由良氏

研修会について。千葉市の課題として、行動障害のある方に対する支援力を身に着ける必要がある。そのため障害の基礎的理解を育む研修を実施。第一弾(7月)は仲村氏が発達障害に関する講座を開催。第二弾は実践部分に焦点を当て、高柳氏にご講義いただいた。行動障害のある方に対する支援、小児期から各ライフステージでの変化やその対応、就労等幅広くお話いただいた。どちらの講座も 100 名を超える方々にご参加いただいた。アンケート結果では発展的な内容の講義も望んでいるという回答もあった。参加できなかった方に対してはアーカイブ配信を予定している。

メープルリーフ 高柳氏

高齢関係の支援機関も参加されていたことが意外で、アンケート結果を見ても良かったと思う。どの支援機関も悩んでいるのだと感じた。

花見川区 近藤氏

研修は在宅医療・介護連携支援センターの協力で広く告知・配信が可能になった。同センターも今年度から、高齢分野主体から障害分野も関わってくれている。高齢分野と障害分野がつながっている部分もあるとの認識だと思う。中核地域生活支援センターにも声掛けしたら参加してくれた。千葉市在住の方も他市の事業所を利用していることが多く、千葉市のホームページから入るにしても、市内事業所だけに限らず視聴可と在医介連支センターには確認した。

稲毛区 井出

研修は多くの方に参加していただき、児童関係の事業所から質問もいただいた。今後もあり方や周知方法、内容をより深めていきたい。

アンケート調査の進捗はいかがか？

障害福祉サービス課 北田氏

約560件送付し、現時点で回答率が49.85%。想定外に多くご回答いただいているが、電子より紙媒体の回答が目立っていた。11～12月頭に概要版を出していきたいが、正式な報告書はしばらくお待ちいただきたい。

稲毛区 井出

回答方法については基幹にもお問い合わせいただいている。

中央区 伊藤氏

「早く調査を実施してほしかった」とご意見も入っている。自分の子どもの対応に苦慮したスタッフから「大変でした」と言われ続けたご高齢の親御さんがいらっしゃる、そういった話を伝えられるところできたと同っている。

緑区 由良氏

調査結果を元に、行動障害を考える会で何ができるのか。それを12月上旬に話し合いたいが、概要版はそれまでに出るか？

障害福祉サービス課 北田氏

回答内容がさまざま。善処する。

議題5【報告】千葉市精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム 推進構築事業について

資料5

鎌取相談支援センター 末永氏

病院の相談員が集まり交流会を開催した。地域移行支援や地域定着支援を行っている中でどのような課題があるのかを抽出した。地域移行支援は期間を要する。その事業を使わずに直接グループホームに入った方が早い、その調整を行う相談支援専門員がないがしろにされている印象がある。病院側としては「グループホームに入ればそれでいい」となるが、本人が本当にそこでいいと思っているのか、今までの本人の歴史から今後の生活にどうつながるのか、時間をかけて支援者が関わり進めていくプロセスが必要だと考える。詳細にアセスメントを取り、地域に戻った場合にどのような支援が必要なのか等、本人と関係機関でしっかり話し合いを重ねていけば、それほど問題にはならないはずである。

精神保健福祉課 永井氏

これからの予定をお伝えする。進め隊は11月に研修会を開催予定。広め隊でも順次講座を開催。10月中央区（松波）の市民向け講座では精神障害以外にもスポットを当て、関係機関にブースを設けていただくスタイルを初めて実施する。緑区は2月に変更、随時調整する。花見川区は10月に開催予定。千家連や訪看からご講義いただき、地域の方との座談会も予定。今回は会場参加のみ。11月2日は若葉区、12月は美浜区で開催を予定。若年層講座では、高校での開催や淑徳大学とのコラボ企画を予定。事例を用意し模擬面接を行う。植草学園発達教育学部では約100名の学生を対象。放課後等デイサービスにも参加いただく。保健医療大学では訪看に所属している作業療法士より、業務内容やケアの視点についてご講義いただく。幕張総合高校の看護科では、高校を卒業した方に対

して講演を行う。淑徳大学と似たような模擬面接を予定している。犢橋高校は来年度に実施予定。

8月22日、オンラインで当事者から体験談を伺った。今後は帝京平成大学でも開催予定(11月22日)。幕張総合高校でも体験談をお話いただく予定だったが来年度に延期。その他、こころの健康センターでの家族会向けの研修会を実施、11月にも行う予定。10月5日はけやきと仲間からお話いただき、10月7日はなんでも相談会を実施。なんでも相談会は、ハイブリッド形式で会場参加者には各機関のブースを設け、ブースでもご相談いただける形で進める予定。

稲毛区 井出

周知について前回稲毛区の公民館講座の報告をさせていただいた際、周知方法についてご意見いただいたので、今回永井氏より各隊の動きをお話いただいた。公民館講座の他、企業や教育機関に向けた活動も行い、地域の方と連携を強め広められればと思う。

●参加者からの質問

花見川区 近藤氏

末永氏から相談員の役割についてご意見があった。病院からの地域移行に際し、福祉サービス利用開始までに要する期間についてもお話があったが、今は医療サイドにもご理解いただけるようになったと感じる。本人と事業所とのマッチングについては、相談員の役割も課題として改めて感じた。

鎌取相談支援センター 末永氏

病院のワーカーが「グループホームが空いているからそこに入ってもらえばいい」となり、相談支援専門員の役割が病院側に伝わっていないというイメージで捉えていただければと思う。中立・客観的な立場で、本人の気づきやグループホームの支援力といったマッチングの必要性を病院側は感じていない可能性がある。

キャリアセンター 藤尾氏

退院前のいつの時期から関わるのか？病院ならば保険診療点数があるので業務の範囲が限られるのでは？

若葉区 伊藤氏

実際に地域移行支援しているところは少ない。理由は作成・提出書類や報告頻度が多く敬遠されてしまうから。また専門的な内容もある。にも包括ではOJTや手順書を提案しているが、現実問題として、病院では入院期間が限られており、計画相談も業務で手一杯。その手順がうまくいっていない印象を持つ。

キャリアセンター 藤尾氏

新しい事業や制度ができると一生懸命取り組むが、既存の制度や資源を活用・持続させることについてはないがしろにされる。そんな感想を抱いた。

鎌取相談支援センター 末永氏

地域移行支援や地域定着支援の手続きに目を向けてしまいがち。福祉側の視点が病院に入りきれていない。

花見川区 近藤氏

そういった医療と福祉等の垣根を超えるための、にも包括だと考える。

精神保健福祉課 永井氏

医療側の視点、福祉側の視点、さまざまな角度から吸い取っていききたい。

議題6【報告】就労部会

資料6

- ・令和6年9月12日(木)第1回就労継続支援A型・B型事業所意見交換会
- ・令和6年9月17日(火)第3回就労部会

キャリアセンター 藤尾氏

9月12日に就労継続支援A・B型事業所の合同意見交換会を開催。基幹にも

ご協力いただき、40事業所63名にご参加いただきました。まず千葉県障害者就労事業振興センターより、次に障害者自立支援課よりお話いただきました。アンケートは全員ではなく38名に回答頂いた。「参考になった」というご意見やグループワークに高評価を頂いたが、次回参加については無回答が4件あった。9月17日就労部会ではこの意見交換会について振り返りをした。受注作業の需要と供給について、品質や業務の質の担保等双方の実態が見え、バランスが難しいという話が出た。そもそも支援スタッフ向けの研修がないので検討しなければならない。最近B型事業所が増えているがそれぞれの事業所の目的が明確でない。

次に、全県を対象とした組織である千葉Aネットの紹介冊子の情報共有。24～26の事業所を紹介しているが全体の4分の1しか入っていない。大手事業所が参加していない。仮に千葉市でA型事業所の冊子を作るのであれば、Aネットとフォームを揃え、千葉市から依頼をして参加する事業所を増やしたい。スコア100をきるところが散見されている。持続できないのではないかと危惧。

第2回就労移行支援事業所意見交換会も予定している。令和7年10月からスタートする予定の就労選択支援事業について、千葉市はまだ白紙状態だと思う。どの事業所も開始しない可能性もある。厚労省の調査依頼で、障害者就業・生活支援センターでの実施予定は全国で6か所のみ。地域でどこがやるのか把握しないと来年度から開始できない。令和7年1月に調査を目的とした勉強会を開催予定。

今後の就労継続支援事業所の意見交換会について。千葉市が優先調達に力を入れているならば、その話をご報告いただき意見交換しようとして11月に開催予定。A型やB型でどんな仕事ができるのかリスト化したり基準を設けたりする等、障害者自立支援課からお話いただくことを検討。オリーブハウス加藤氏からもお話いただき、事業所のみなさまのモチベーションを上げていきたい。

稲毛区 井出

就労継続支援の意見交換会に参加させていただいた際、あるA型事業所では試験的な目的で、1か月間企業で無償で働き、企業にとって有益な働きであれば採用してもらうという話をされていた。印象的だった。

障害福祉サービス課 北田氏

自分も参加させていただいた。活発に意見交換されていた。就労選択支援事業については資料が不足しているが、1年後には施行されるので事業活用に向け進めていきたい。優先調達については、市として力を入れている状況。積極的に広報している。

議題7【報告】相談支援従事者初任者研修

資料なし

稲毛区 井出

9月12日にインターバル研修を実施。昨年度は74名、今年は58名だった。障害福祉サービス課にご協力いただき市役所で対面開催し「地域を知る」という目的で講義、社会資源マップを作成した。マップを完成させた方には終了印を押している。

議題8【報告】保育所等訪問支援事業所連絡会

資料なし

障害福祉サービス課 荒井氏

今年度、国からガイドラインが示されたことから、保育所等訪問支援事業所に対し、適切な事業運営を行うこと及び事業所間での意見交換を目的に実施した。主な周知事項は、標準支給量は月2日とすること及びサービス開始前に訪問先（保育園や学校等）と調整したうえで実施することである。また、半年を目安に結果を見直し・検証する予定である。なお、説明会には市内の36事業所54人が参加した。周知については民間保育園等連絡会議（資料配布）、学校長会議（資料配布）、相談支援事業所の合同研修（オンライン）で実施した。今後は幼稚園協会や公立保育所長会議、11月に行われる特別支援学校支援コーディネー

ター研修でも説明を予定している。

稲毛区 井出

今後は同意書が必要になる。様式は千葉市のHPから取得できる。

●参加者からの質問

キャリアセンター 藤尾氏

この事業は保育園や学校等の職員がスキルを身につけるためのものなのか？

障害福祉サービス課 荒井氏

お見込みの通りである。

中央区 伊藤氏

中央区では児発のみで意見交換会を開催した。そこでも保育所等訪問支援事業について意見が挙がっていた。ある事業所は、事業のニーズが高いにも関わらず2日間のみ支給決定日数は納得がいけないと話していた。保育所等訪問支援を行っている事業所は本人観察のみが多い。しかし、その事業所の加配職員を訪問先に配置できないという理由で、加配職員と同等の支援をしているとのことだった。保育所等訪問支援事業について正しい理解がされていないという課題がある。もう1点、相談支援専門員との会議開催について。自事業所を利用されている方の会議出席率は1割未満。そもそも会議に呼ばれないとのことであった。今回、例えば20日間支給申請する際、そのプランの根拠が共有されていないという課題もある。また、千葉市では児発や放デイは暦日数-8日間で支給されているが、他市はより規制されている。ある市は基本10日間でそれ以上は理由が必要になり、ある市では標準日数を設けられておらず、相談員が日にちを重々検討してから申請する仕組みになっているという。必要性について、誰が家族に伝えているのか不透明のまま支給決定され、現場で運用されてしまっているという課題がある。

稲毛区 井出

標準支給量もさることながら、以前から丁寧にこの事業を行っている事業所もあれば、行動観察のみになっている事業所もある現状。

メープルリーフ 高柳氏

市が整理したことでその効果が出てくるだろう。行動観察のみが多いという時点で保育所等訪問支援ではないと考える。本来ならば保護者や保育園、学校等が望むもの。保育園や学校等は本人に対し困っていないのに保護者が希望したり、保護者は望んでいないのに保育園や学校側が希望したりと、マッチングが図られていない印象を持つ。この事業について平成28年に厚労省が手引書を出している。この事業が千葉市で上手く機能することを期待する。

美浜区 藤本氏

説明会が行われる以前、ある事業所から幼稚園での他の事業所のお話を伺った。園に相談なく、保護者だけと話を進め、結局園からお断りされたと複数聞いている。相談支援専門員の対応も含め注意深く進めていきたい。

中央区 伊藤氏

相談支援専門員向けの研修や、本来はどうあるべきなのかを考え直す機会が必要かもしれない。企画させてもらいたい。

障害福祉サービス課 荒井氏

児童分野で改善すべき項目があったら、ご教示いただきたい。

議題9【報告】こども発達相談室

資料なし

障害福祉サービス課 北島氏

発達障害者支援センターや療育センターへの相談は多く、待機者もでている現状が続いている。市は11月1日に子どもの発達について不安を抱えている保護者が気軽に相談できる窓口を新たに設置する。対象は未就学児とその保護者。事

	<p>前予約制の来所相談。チラシが完成し10月上旬以降正式に配布を開始するが、今回、事前の情報提供をさせていただく。</p> <p>●参加者からの質問 メープルリーフ 高柳氏 「継続的に」と文言が入っているが、当初は相談回数4回と制限があったと記憶する。継続して相談し続けることは可能なのか？ 障害福祉サービス課 北島氏 多くが4回程度の相談で終了すると想定はしている。しかし、4回が上限というわけではなく、実際には保護者の思いや必要性に応じて相談の回数や期間は異なっていく。</p>	
	<p>その他</p>	<p>資料なし</p>
	<p>メープルリーフ 高柳氏 厚労省から発信されている「香りへの配慮に関する啓発ポスター」について。どこまで対応すればいいのか？資料を拝見する限り、私用の洗濯剤まで文言があった。できる限り利用者さんに配慮した生活習慣を意識しているが、それ以上求められると、事業所として職員にそこまでを業務命令として出せるのか、配慮が難しい。このポスターは国から訪問系サービス事業所に向けたものだが、目的が分かりかねる。 障害福祉サービス課 北島氏 化学物質過敏症の方から消費生活センターに相談があった経緯があるようだ。 キャリアセンター 藤尾氏 サービス提供における合理的配慮という捉え方で合っているのでは？ 中央区 伊藤氏 「化学物質過敏症の方に対しては、香りのする柔軟剤を使った服を着ない等の配慮をお願いしたい」という意味合いなのだと思う。 メープルリーフ 高柳氏 嗅覚に刺激を受けて頭の中がパニックになるという研究の記憶がある。耐えられる匂いを確認すればするほど耐えられない匂いも増えているという研究結果もある。対応が難しい。</p>	
<p>次回予定</p>	<p>日時：令和6年11月28日（木）14時～ 会場：中央区保健福祉センター</p>	